

2017年

8月10日

第305号

ゆうあい通信

発行所 石井記念友愛園

宮崎県児湯郡木城町椎木644番地1

〒884-0102 Tel 0983-32-2025

「友愛バンドの君たちへ」

園長 児嶋草次郎

非常に暑い日が続いています。一雨欲しいところですが、梅雨が明けて以来まともな雨も降らず、大地もボコボコに乾燥し始め、花壇の花への水やりも大変になって来ています。マリーゴールド、サルビア、ケイトウ等も今のところ元気で、なんとかこの夏を乗り切り、花盛りの秋にしてほしいと願っています。

そんな酷暑の中、7月27日、28日に、県内の児童養護施設対抗の野球、バレーボール大会が開催され、野球の部では、石井記念友愛園がみごと優勝しました。キャプテンのユウトを中心にして、今年はチームワークの良いチームができており、それぞれが生き生きとプレーできていました。バレーボールの方は、残念ながら2位以内に入ることができませんでしたが、みんながチームとしてやる気になっていますので、来年にまた期待したいと思います。野球部は8月22日から大分県で行われる九州大会に出場します。残された期間に一人ひとりの弱点を補強して、九州大会優勝をもめざしてほしいと思います。

ここまで書いた次の朝の未明（8月3日）、起きてトイレに行く途中、窓の外に雨の音を聞き、夜が明けて新聞を取りに玄関に出ると、熱帯の朝のような前日までとは打って変わって大地がしっとりとして湿っており、ひんやりとして風もかすかに吹いていました。恵みの雨であり、天に感謝し拍手（かしわで）を打ちました。

ところが、その後も断続的に雨が降り、一日一日と雲行きが怪しくなって来ています。マスコミは台風5号の接近を報じています。さあ大変ですー。

さて、今回の見出しを「友愛バンドの君たちへ」とさせていただきます。数年前、中・高生の子供たちと一緒に熊本に一泊旅行（「小楠旅行」）に行った際、ある本屋で偶然見つけて買った「明治の青年 熊本の維新に生きた若者たち」（花立三郎著）を再読していてふと思いついた言葉です。

吉田松陰や坂本竜馬にも影響を与えたと言われる幕末の儒学者で開国論者である熊本藩士の横井小楠（しょうなん）。その自宅兼私塾であった四時軒。この

四時軒を訪ねて小楠や弟子達の志を学ぶのがこの一泊旅行の目的なのですが、昨年は予定に入っていたのに地震のため急きょ大分の成宜園等に変更しています。今年も行けるかもしれない（3年1度は行くようにしています）という気持ちもあり、本の再読を始めたのです。

簡単に言えば、明治維新後、小楠の弟子たちが中心になって文明開化を担う人材養成のために作った「熊本洋学校」（明治4年9月1日開校）。その一人の教師をアメリカから招聘（しょうへい）するために、アメリカに留学した経験を持つ小楠の甥（おい）の横井大平が奔走したとか。結局、フルベッキ（後明治学院設立者の一人）の世話でアメリカより退役軍人であったL. L. ジェーンズという35歳の威風堂々とした教師が赴任。

第1回の入学生の中には、小楠の長男横井時雄（後同志社第3代社長）や後に高鍋にも伝道に来て1か月間滞在し高鍋教会の礎を築いた小崎弘道（後同志社第2代社長）もいます。その後、小楠の門弟徳富一敬（いっけい）の息子徳富猪一郎（蘇峰）、金森通倫（みちとも）、小楠の娘みや子、一敬の娘初子等も入校しています。時がたち、金森通倫が岡山教会牧師として石井十次の洗礼者になり、徳富猪一郎が石井十次の支援者となるなどということは、この時点ではだれも予想できないことです。

学生達一人ひとりがどういう思いで入学したのか。その志について「明治の青年」の著者花立三郎氏は次のように書いておられます。

「その志というのは、治国平天下にあり、経国済民にあった。」

つまり、西洋の文化・文明に飢えた若者たちが、新しい日本の国づくりのために、自分達は志士となって疾走するのだという思いに燃えていたわけです。今流に言え、世のため人のために自分達は貢献するという志を持ち、その使命感をたぎらせながら必死に学んだわけです。

熊本洋学校は、5年間しか続きませんでした（明治9年閉校）。しかし、この5年間の間に学校設立の趣旨を越える予想もしない結果が出てしまいます。つまり、ジェーンズの人格に感化され、キリスト教に入信する一団ができたのです。ジェーンズは学校の閉鎖に際して、幸いにもその一団の主なメンバーを京都の同志社英学校の新島襄に托することになります。ちなみに明治12年の同志社英学校第1回卒業生15名は、すべてが熊本洋学校の生徒だったとか。そして同志社では、その熊本洋学校出身の若者たちの一群を「熊本バンド」と呼ぶようになったそうです。このようにキリスト教の信仰によって結ばれ高い志を持った若者集団は、当時日本各地に生まれたようですが、「熊本バンド」はその代表的な一団で有名です。

「友愛バンドの君たちへ」に話を進めたいと思います。おこがましくはありますが、私は、友愛園を卒園して現在大学で学んでいる 11 名（来年 2 名が加わる予定）の青年たちを呼ぶ時に、そういう呼称を勝手に使おうと考え始めているのです。こだわりの強いキリスト者の方からは笑われるかもしれないけど、11 名はそれぞれ石井十次を尊敬し、また時はたとうともその精神文化の中で育ったことを誇りとし、そして今は、社会のために何らかのお役に立とうという志で学んでいるのです。明治の青年のような国を背負うほどの使命感はないにしても、私にとっては、頼もしく、この地域や園の未来を托したい一群であり、一人ひとり、支援者からの期待と信頼を自覚しながら学んでほしいと願っているのです。

彼ら一群を呼ぶ名称が欲しかったのであり、万感の思いをこめて、「友愛バンドの君たち」と呼びたい。

「友愛通信」に、「大学通信」という見出しで毎月報告と現在の志等を書いてもらうことにし、先月号では、まず九州保健福祉大 3 年生の A・N に書いてもらいました。

彼は次のように書いていました。「夢や目標を持つこと。その夢を実現させるために今自分は何をしなければならないのか自分で考え行動に移すこと。夢を実現させるためのヒントとして自分を信頼してくれる人を出来るだけ多く作ること。日々の小さな積み重ねが大切であり急には変わらない事。自分の夢や信念を持っている人はそう簡単にはくじけない」

「同じような環境で育っている子供達たちの希望であり続け、児童福祉を通して社会に貢献するという事と私にしか出来ない事、私だからこそ出来る事を信念に持ち夢を実現させるために頑張っていこうと思います。」

熊本洋学校の生徒たちが厳しい寮生活を通して体得した信念で世に向かおうとしたのと同じように、A・N も厳しい友愛園生活で身につけた信念でもって世に対処しようとしているように見えます。

私は、この A・N の文章を掲載した「友愛通信」を他の 10 名全員に送り手紙を添えました。そしてその手紙では一人ひとりに、この「大学通信」を書いてほしいこと、その目的は、一つは支援して下さっている方々へのアピールであり、もう一つは、11 名が初心を忘れず、4 年間戦い抜いて卒業する意志を持続させるためと、訴えました。

一人ひとり、志や思いにレベルの差はあるけど、与えられたチャンスを最大限に生かし、自分の夢の実現に挑戦してほしいと願っています。20 年後、30 年後のことはだれも予想できません。可能性は無限に広がるのであり、自分に秘められた力を信じて前進していけばよいのだと思います。

熊本バンドの若者たちがその後社会に出て各分野で活躍したように、「友愛バンド」の若者たちも、ある者はこの石井記念友愛社に帰って来て、職員となることでしょうし、ある者はこの近隣の市町村、あるいは県の職員になって、この地域のために貢献することでしょう。石井十次が亡くなる時に告げた、一人ひとりが石井十次となって生きてほしいという願いは、その行動によって引き継がれていくのだと、私は勝手に夢想しています。以下、11名に出した手紙の一部です。

A・N（大学3年）へ

「果たすべき使命と将来への志」を送ってくれてありがとう。大学へ行くことでこれだけ心も成長するのだと、私も意を強くしました。みんなが大学に行けるわけではないけど、こうして能力を持っている者は、志を持って、世のため人のために生きる人間に成長してほしいとあらためて思う。

世間の人達に対して、児童養護施設で育っても、これだけプライドと誇りを持ったすばらしい人材が育っているのだとアピールすることにもなり、重要な事だと思う。

A・K（大学3年）へ

先週、延岡に行く用があったので、みどり学園に寄り、園長先生にアルバイトを今年もさせていただいていることのお礼を言っておきました。

先日、進学を支援したいという人が来園された。現在の進学状況を話し、できれば大学院進学を支援してほしいと話したら、了解された。Aは成績も良いし、大学院へ行って臨床心理士になる気はないか、考えてほしい。

K・T、R・T（大学2年双子）へ

A・Nが書いた文章を読んでみてください。なかなかしっかりしたことを書いています。大学に進学して随分成長しているんだなと感心します。

K、Rにも色々と悩みごとや誘惑もあると思うけど、しっかり自戒自規の生活を送ってください。体も大事にすること。孤独なMにも時々は声をかけてあげてください。

U・K（大学2年）へ

今朝の宮日新聞でUの名前を見つけてうれしくなった。学科を転科してどうだろうか。ちゃんとついて行けているのかな。スタートが少し遅れることになったわけだから、しっかり学んで単位を落さないようにしてほしい。

来年は、T・NとR・Yも加わる。みんなで支え合って前進してほしい。

T・N（大学2年）へ

Tのアルバイトはなかなかうまくいかないようだけど、これから社会人として生きていくためには、自分の現実から逃げずに素直に自分に向き合い、すこしずつ自分の性格を変えることに挑戦していかねばならない。ゲームに流されないように。また食事会の時に、Tの元気な姿を見ることを楽しみにしている。

A・M（大学2年）へ

Aで思い出すのは、駅伝大会の時のあの鬼のような形相で走るがんばる姿だ。あの根性は今もAの中にあるのだと思う。

時々、森下さんに注意されているようだけど、まだ自分ですべての責任がとれるような立場ではないし、授業料を免除してもらっているという感謝の気持ちで大学には通ってほしい。

H・K（大学1年）へ

大学に入学してもう4か月になろうとしているけど、元気で頑張っていることと思う。信頼できる友人はできただろうか。色々困ったことが生じた時は、前担当の岩村さんに相談すること。自分で抱えこんでしまうのが一番よくない。

Hは親とも交流できず助けてくれる親族もいないので、大学4年間でしっかりこれから生きていく力と、信頼できる友人や師を獲得してほしい。

T、O（大学1年）へ

大学生活にもう慣れたことだろう。友愛社でしっかり忍耐力、精神力等を身につけて来ているわけだから、何事に対しても逃げずに挑戦して行ってほしい。プライドと誇りを持って学び、働いてほしい。しっかり勉強して、単位を落さないようにがんばってほしい。

R・Y（大学1年）へ

大学生活にも、もう慣れたことだろう。友愛社でしっかり忍耐力、精神力等を身につけて来ているので、何ごとにも負けずに進んでいけると思う。プライドと誇りを持って学び、働いてほしい。

Rのことだからぬかりはないと思うけど、単位を落さないようにがんばれ。

M・I（大学1年）へ

大学に入学してもう4か月になろうとしているけど、岡山の生活には慣れただろうか。信頼できる友人はできただろうか。大学の授業にはついていけるだろうか。根性や忍耐力については、友愛社で十分に身につけているわけだから、しっかりやっているのだろうと想像しています。

Rはようやくそちらに進学することを決めたようだ。もし、そちらにいくようになった時には、お世話してあげてほしい。